

(11月の野菜の見通し)

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年入荷 量(t)	前年占有 率(%)	
だいこん		11,398	100	12,724	94	80	75	222	2.0	千葉産中心の入荷で全体の約6割を占める。千葉産の生育は概ね順調であるが、作付面積の減少から、長雨の影響で少なかった前年並の見込み。出荷は前年よりやや早めの10月中旬から始まったが、11月中旬が出荷ピーク。全体的には入荷量は前年並、価格は前年並の見込み。
にんじん		6,802	115	7,864	180	55	119	-	-	北海道、千葉産中心の入荷で全体の約7割を占める。北海道産は、例年どおり11月中旬に切りあがりだが、干ばつの影響により生育がやや遅れ、M中心の小ぶりの仕上がりととなっている。千葉産は、10月末からの出荷で、生育はやや遅れ気味だが、肥大は問題ないとのこと。昨年は関東産の出遅れで中国産が輸入されたが、埋めきれず価格は高騰した。今年は、関東産も順調で入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年を下回る見込み。
はくさい		12,449	105	14,102	76	50	46	14	0.1	茨城産中心の入荷で全体の約9割を占める。茨城産は10月末から11月上旬にかけてピークとなり、生育は順調で玉肥大も良好。全体の入荷量はほぼ前年並で、価格は高値であった前年を大幅に下回り、前年と比較してもやや下回る見込み。
ほうれんそう		1,504	120	2,126	549	60	399	1	0.1	群馬、茨城、栃木、千葉の関東産が市況をリードする。群馬産は、10月に入り曇天の影響で生育は進んでおり、概ね順調な生育となっており、前年を大幅に上回る入荷となる見込み。埼玉産は、高温の影響で生育はやや悪かったが、ここにきて回復してきており、気象災害により不作であった前年よりは大幅に増加する見込み。全体の入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。
キャベツ類		12,054	110	13,635	146	40	81	-	-	千葉、茨城産中心の入荷で全体の約6割を占める。千葉、茨城産は玉伸びも良好で出荷量は前年並みの見込み。全体の入荷量は他の秋野菜同様少なかった前年を上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込み。

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年入荷 量(t)	前年占有 率(%)	
ねぎ		5,686	100	6,242	244	75	218	242	4.3	青森を中心とする東北産に、本格出荷が始まる埼玉、千葉、茨城など関東産が市況をリードする。青森産は、12月いっぱい収穫で、生育、品質とも良好で入荷量は前年並の見込み。埼玉を中心とする関東産は、11月から本格的な出荷となるが、大きな気象災害もなく、順調な生育となっており、前年を上回る入荷となる見込み。昨年は、長雨で品質は悪かったが、高値の影響で量的にはある程度確保できたことから、今年は、入荷量はほぼ前年並、価格は高値であった前年を大幅に下まわる見込み。
レタス類		4,941	120	6,602	328	40	190	-	-	茨城、香川産中心の入荷で全体の約8割を占める。茨城産の生育は順調で、台風による浸水被害で少なかった前年を大幅に上回る見込み。香川産は、生育初期の干ばつと10月の曇雨天つづきにより、生育がやや遅れており、11月中旬頃がピーク、入荷量是不作であった前年を大幅に上回る見込み。全体の入荷量は凶作であった前年を大幅に上回り、価格は暴騰した前年を大幅に下まわる見込み。
きゅうり		5,217	98	5,598	316	75	306	33	0.6	埼玉、群馬の関東産中心の入荷で全体の約6割を占める。埼玉、群馬産など今後主力となる関東産は、曇天が続いており、量がやや少なく、また色も薄く品質的にもやや問題があるが回復傾向にある。但し、燃料費が昨年の2倍になっていることから、やや出荷量に影響がでてくと予想している。全体の入荷量はほぼ前年並、価格は暴騰した前年を下まわる見込み。
なす		1,961	110	1,783	418	80	381	-	-	高知産中心の入荷で全体の約7割を占める。高知産は、昨年は台風の影響で大幅に少なかったが、今年はほぼ順調な生育となっている。また、作付は多品目からの作付転換でやや増加しており、入荷量は少なかった前年を大幅に上回る見込み。全体の入荷量は少なかった前年を上回り、価格は暴騰した前年を大幅に下まわる見込み。
トマト		4,740	130	5,430	421	65	376	9	0.2	千葉、茨城、熊本、愛知中心の入荷で全体の約7割を占める。千葉産は、抑制ものの入荷が11月中旬までで、やや小玉傾向となっている。越冬ものは11月中旬以降ピークをむかえるが、生育は順調で入荷量は前年並の見込み。茨城産は曇天つづきにより、やや着果不良と生育の遅れが見られ、11月の入荷はやや前年を下まわる見込み。熊本産は、11月下旬から出荷ピークをむかえるが生育は順調で、入荷量は少なかった前年を上回る見込み。全体の入荷量は少なかった前年を大幅に上回り、価格は高値であった前年を下まわるもののほぼ前年並の見込み。

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年入荷 量(t)	前年占有 率(%)	
ピーマン		1,746	105	1,824	451	60	342	-	-	茨城、宮崎産中心の入荷で全体の約8割を占める。茨城産は、加温ものへの切り替わりの時期となるが、加温ものはやや増加傾向にあり、生育も順調で、11月の入荷量は前年をやや上回る見込み。宮崎産は、定植後の生育も順調で、11月の入荷量は例年並みで、不作であった前年を上回る見込み。全体の入荷量は、不作であった前年を上回り、価格は高騰した前年を大幅に下まわる見込み。
ばれいしょ		6,607	100	7,450	104	96	95	-	-	北海道産中心の入荷で全体の約9割を占める。北海道産は、春先の低温・干ばつの影響によりやや小玉傾向で、品質も8月の多雨の影響で形状がやや悪く、出荷量は前年をやや下まわる見込み。11月の入荷量は前年並、価格は前年をやや下回る見込み。
たまねぎ		9,714	98	10,615	83	96	74	-	-	北海道中心の入荷で全体の約9割を占める。北海道産は低温により生育がやや遅れているものの概ね良。全体的に入荷量は前年がやや多かったことから、今年はやや前年を下まわり、価格は昨年を下まわるも、平年比ではやや上回る見込み。